

埼玉県立 小児医療センターだより

●埼玉県立小児医療センター

〒330-8777 埼玉県さいたま市中央区新都心1番地2

Tel > 048-601-2200 (代表) Fax > 048-601-2201 E-mail > n581811@pref.saitama.lg.jp

URL https://www.pref.saitama.lg.jp/scm-c/index.html

看護部のご紹介 新病院での看護部の取り組み

看護部長 久 保 良 子

平成29年度から小児医療センター看護部長として2年目になります、久保良子と申します。今年の夏は、猛暑・豪雨・地震と自然災害に見舞われ多くの方が犠牲になりました。東日本大震災がまだ記憶に鮮明に残っている中、災害に対する準備を強く意識した年でもありました。



小児医療センターは、移転し2年を迎えようとしています。病床数316床(旧病院300床)で、平成30年4月の常勤看護職員は定数510名、非常勤、看護補助者を含め613名が看護部職員として勤務しております。看護師は子育て支援制度を活用し多様な働き方ができるようになり、出産後も殆どが勤務を継続し、その内43%が夜勤を行っています。

平成29年度は移転後の初年度であり、新病院がどのように変化し、新看護体制となった各部署が役割を果たせているか、動向を見ながら日々対処する一年でありました。初年度を振り返り、大きく変化したのは総合周産期母子医療センター(NICU30床、GCU48床)、救命救急センター(PICU14床、HCU20床)の開設に伴いハイリスクの患者さんの入院が増え、看護の専門性がより高く求められるようになったと感じています。新病院では、超低出生体重児、極低出生体重児の入院数が、移転前と比べ6倍に増加し、呼吸器管理を必要とする患者さんも院内全体で1.5倍に増えこれまで経験したことのない状況でした。平成29年度の病床利用率は81.1%、一般病棟では各科の予定の入退院、集中治療部門への転出入、救急の受け入れ、日帰り治療などで、88.4%と稼働率の高い病棟へと様変わりしました。このような状況の中、退院支援では地域との連携がとても重要であり、これまで以上に合同研修会、研修派遣、合同カンファレンスを進めて患者さん・ご家族が安心して在宅療養を継続できるような取り組みを強化していくことが必要と感じております。

このような変化に対応すべき課題は、人材育成と環境整備になります。人材育成としては、クリニカルラダーに沿った院内教育計画を基盤に、更に専門性の高い分野でのクリニカルラダー(小児集中治療、周産期、小児救急、周術期、造血幹細胞移植看護)の整備があります。エビデンスに基づいたケアを提供できるように、看護の質の向上に取り組んでいます。看護部には、小児専門看護師3名、認定看護師21名(11分野)がそれぞれの専門を生かし、研修会企画、院内外での講師、実践・指導、また、通院患者さんを対象に外来の看護コンシェルジュでも活動しています。

環境の整備としては、変化を受け入れることから始め、新病院での変化した業務を見直しマニュアルを整備し、 限られた資源の中で安全な医療を心掛け、効率よく業務が遂行できるように取り組んでいます。

また、看護師養成校は小児実習の実習先の確保に苦慮している現状があります。今年度、当病院では13校から実習生を「Welcome」「Watch」「Warm」の3つの姿勢で受け入れ、未来の看護師に臨床経験の第一歩の場を提供し支援に力を注いでいます。

新病院での新たな課題として、肝移植、災害拠点病院認定、ゲノム医療など目まぐるしく変化していく中で、看護部は「子どもたちの未来のために子どもたちの最善を目指した看護を提供する」を理念に子どもたちのために、多職種・地域との連携を大切にしていきたいと思っております。引き続き、皆様のご支援・ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

埼玉県立小児医療センターだより 第12号 ご案内

\bigcirc	看護部長 久保良子 挨拶p.1	\circ	9A病棟の紹介p.5
\bigcirc	精神科の紹介p.2	\bigcirc	お知らせ
\bigcirc	臨床心理士の紹介p.3		ボランティア活動の紹介p.6
\bigcirc	皮膚科の紹介 ·····p.4		受診の案内・アクセス方法p.6



るな はし けい いち 精神科 舟 橋 敬 一

○診療内容

当診療科では中学校入学前のお子さんのこころの問題に対応しております。行動の問題、感情の問題、身体症状、学校適応が困難であるなどの問題です。精神障害というと脳の疾患として起こってくるものというイメージがあるかもしれませんし、そう考える必要のある障害もありますが、当センターで拝見している多くの方の場合は、認知発達の未熟さによるものであったり、生活環境の問題であったり、あるいは、過去の恐ろしい体験の影響であったりと、心因反応として起こってきている症状です。慢性的な疾患がストレス因となって精神的な影響がみられる場合もあり、時に当センター他科に通院中や入院中のお子さんも対象になります。

お子さんや保護者との面接や心理検査、生理学的検査から、症状の成り立ちを理解して診断し、必要な対応を考えていくことになります。ご本人はもちろん、ご家族の生い立ちや生活、思いを細かく伺うことも多いかと思いますが、子どもの心の症状はそれらと無関係ではないからです。定型の検査に関しては、発達を含めて心理検査は臨床心理士、言語発達と学習の評価は言語療法士、協調運動の評価は作業療法士によって行われております。

介入方法は、環境調整と心理療法、薬物療法などですが、特別な心理療法が必要な場合は臨床心理士が担当 しています。発達障害(自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害、限局性学習障害、発達性協調運動 障害)に関する療育や訓練は行なっておりません。また、生活環境が影響を与えている場合など、地域の他機 関との連携をとって介入を進めることも少なくありません。今後ともご指導をお願いする次第です。

○対象疾患

精神科としての入院病床を持たないため、外来で対応可能なこころの問題が対象となります。認知発達の問題、強い不安や恐怖感、ストレス反応、心理的要因が関与すると考えられる身体症状、それらを背景とする行動の問題などです。



臨床心理士 成 田 有 里

保健発達部のコ・メディカルは、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・臨床心理士・視能訓練士で構成されています。臨床心理士(常勤4名、非常勤4名)は、発達についての心配や様々な不安を持つお子さんやご家族に対し、心理的な評価・相談を行います。

心理では、赤ちゃんから高校卒業までのお子さんを対象としています。心理支援の内容としては、大きく分けて下記の2つになります。

1. 心理療法・発達相談

- ①精神科からの依頼によって、心配なことを抱えたお子さんに対して、個別で遊戯療法や面接などを行います。また、お子さんのご家族に対しての相談も、必要に応じて行います。相談例としては、やる気が出ない、イライラする、心配なことや嫌なことがあると体調が悪くなる、友達と遊べない、気になる癖や行動の問題があるなどです。
- ②総合周産期母子医療センター、小児がん拠点病院としての役割も含め、入院されているお子さんやご家族への心理支援、ピアグループなどを行います。

2. 心理検査・発達評価

- ①発達や行動の特徴、性格などについて、当センター各科からの依頼によって、発達検査や知能検査、その他の心理検査を個別で行います。検査は、治療経過で必要な場合や、お子さんの側面を知る手がかりとして、お子さんの生活や教育に役立てて頂くための1つの参考資料になります。
- ②多職種で行う集団外来において、発達や心理的な問題についての評価を行います。

複雑な社会になってきている現代では、生きづらさを感じている大人も子どもも増えているのではないかと思います。のようなストレスの多い社会で、無にとっての多い社会で、誰にと発ってもの心身の不調をきたするとはありません。発子とはありません。る子が安心はあります。分別を受けることになる。分別を受けることになる。分別を受けることになる。分別を受ける。少さも対対を受けます。分別を受けます。少さも対対を対しております。からに表えております。



臨床心理士スタッフ 「しんり」室にて



皮膚科 玉城 善史郎

診療内容:

現在常勤医師2人体制で診療を行っております。対象は小児の皮膚疾患全般ですが、特に乳幼児期・学童期のアトピー性皮膚炎を含めた湿疹群や皮膚腫瘍の診断・治療および母斑のレーザー治療(血管腫、異所性蒙古斑、太田母斑など)・神経皮膚症候群とよばれる先天性・遺伝性疾患の診断および他科連携に力を入れています。その他では、伝染性膿痂疹(とびひ)や尋常性疣贅(イボ)といった皮膚感染症や膠原病、尋常性乾癬、接触性皮膚炎、円形脱毛症、陥入爪など、皮膚だけでなく毛髪や爪に症状が現れる様々な病気の診断と治療を行っています。

また、入院にて全身麻酔下での上記母斑のレーザー治療や皮膚腫瘍切除術なども行っております。

さらに、形成外科医師や皮膚・排泄ケア認定看護師、理学療法士、管理栄養士とともに週1回の褥瘡回診にて、入院中の患者の褥瘡予防対策・治療を中心として様々なスキントラブルに対するケアを行っています。

小児の地域医療に少しでも貢献できるよう診療体制のさらなる充実を目指して努力していきたいと考えておりますので、今後とも患者様のご紹介ならびにご指導ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。

以下に2017年度の初診患者の疾患内訳を記載させていただきます。

初診患者疾患内訳

疾患群	患者数
湿疹・皮膚炎群	8 7
蕁麻疹・痒疹・皮膚そう痒症	9
紅斑・紅皮症	6
薬疹・GVHD	5
血管炎・紫斑・脈管疾患	4
膠原病及び類縁疾患	8
物理化学的皮膚障害・光線過敏	1 0
水疱症・膿疱症	0
角化症	4
色素異常症	1 2
真皮・皮下組織の疾患	9

疾患群	患者数
付属器疾患	3 7
母斑と神経皮膚症候群	9 2
血管腫・血管奇形	1 2 0
異所性蒙古斑・太田母斑・扁平母斑	9 1
色素性母斑	7 6
良性腫瘍	100
ウィルス感染症	2 1
真菌感染症	2
細菌感染症	4
虫刺症など	2
その他	4
合計	7 0 3



師長 鈴木 泰子

9 A病棟は外科・泌尿器科・眼科・歯科を主な診療科とし、4 床室の大部屋が5 室・個室8 室からなる28 床の病棟です。様々な検査や手術が必要な幅広い年齢層のお子様が入院されます。

9 A病棟の特徴は、鼠径ヘルニア・陰嚢水腫・斜視等の手術で、入院期間が3~4日間のお子さんが多いことです。またストーマ・導尿・胃瘻等の医療ケアが必要な方も多く入院されます。

お子様の年齢や発達に応じた説明を行い、安心してお子様とご家族が検査や手術にのぞむことを心掛けています。検査や手術を終えられた後、日常生活に1日も早く戻れるように、医師・看護師をはじめとした様々な 医療スタッフがチームとなり支援させていただいています。



モッキーが病棟入口でお出迎え



みんなの一番人気はプレイルーム



9 A スタッフ集合! 安心できる看護を提供します



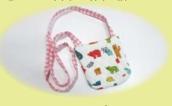
お母様やお父様と一緒にお泊りができる有料個室



ボランティア活動の紹介(その2)

小児医療センターでは、患者さんやご家族のために、たくさんのボランティアが活躍しています。今回は「**病院ボラ** ンティアの会 (手芸班)」の活動をご紹介します。

手芸班は、主に病棟の患者さんが使う布製品を製作しています。デザイン・サイズ・布の選定など患者さんの特徴や 用途に合わせるため、かなり根気のいる作業です。それでも、「患者さんや医療スタッフの一助になれば!」という強 い思いから手間と時間を惜しまない手芸班、とても頼りになる存在です。



テレメーター用ポシェット



ミトン



保冷材カバー

医療機関の皆様へ 受診のご案内

①患者ご家族からのご予約



予約センター

受付時間 (9時~17時 土日祝除く)

一般外来

2048-601-0489 保健発達部門

2048-601-2165

予約当日に お持ちいただくもの 患者さん

来院

①保険証

②医師の紹介状

③母子健康手帳

④医療券

(公費負担を受けている方)

②医療機関の先生からのご予約・お問い合わせ



電話交換手へ緊急性があることをお伝えください (365 日 24 時間対応可能)

> 小児医療センター 代表電話 **2**048-601-2200

電話交換手へ相談内容をお伝えください 受付時間 (9 時~ 17 時 土目祝除く)

診療科が明確な場合はその「診療科 医師」へおつなぎしますので、ご相 談ください

休日・夜間又は、診療科が不明確な 場合は「救急診療科医師」へおつな ぎしますのでご相談ください

「地域連携室」が対応します まずは現在の症状が分かる診療情報 提供書を FAX で送っていただき、 調整の上ご連絡します FAX 番号 048-601-2237

病院へのアクセス



■公共交通機関をご利用の方

- JR京浜東北線、宇都宮線、高崎線「さい たま新都心駅」から徒歩約5分
- JR埼京線「北与野駅」から徒歩約6分 ※歩行者用デッキを点線に沿ってお進みくだ さい。

■お車をご利用の方

- 駐車場は有料になります。
- 機械式駐車場には車両のサイズの制限があ ります。
- ※ご利用の時間帯によっては、車両が集中し、 入庫まで大変お時間がかかることが予想さ れます。

できるだけ、公共交通機関のご利用をお願 いいたします。